



三次駅に到着した記念ヘッドマークを付けたみよしライナー

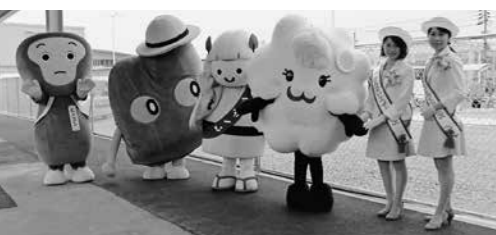
芸備線 100周年 記念式典

5月30日(土)、100周年を祝い、広島駅と三次駅で芸備線100周年記念式典とさまざまなイベントが行われました。

広島駅では、テープカットや広島市消防音楽隊による演奏の後、華々しく記念ヘッドマークを付けたみよしライナーの出発を見送り、みよしライナーが到着した三次駅では、沿線北部3市のマスコットキャラクターや鉄道ファンなどが駆け付け盛大に出迎えました。駅前では観光協会による観光PRや、JRの主催するさまざまなイベントが催されました。



主催者、来賓によるテープカット(広島駅)



沿線市のマスコットキャラクターが勢ぞろい(三次駅)



甲冑試着体験で若武者になりきる男子(三次駅)



みよしライナーを出迎える沿線市の首長やJR関係者、来賓、地元園児たち(三次駅)

芸備線に乗ろうツアー

4月28日(火)・29日(水)、安芸高田市歴史民俗博物館企画展の関連イベントとして、「芸備線に乗ろうツアー」が開催されました。

ツアーでは、博物館での企画展を見学した後、向原駅から三次駅までJR芸備線に乗車。三次駅では転車台跡、旧三次市文化会館ではS L 48650号機(通称「ハチロク」)、最後に西三次駅駅舎を見学し、参加した皆さんは興味深そうに芸備線にまつわるものや場所を見学されていました。



学芸員から企画展の説明を聞くツアー参加者のみなさん



旧三次市文化会館ではS L 48650保存活動による修復作業が行われています



三次駅で転車台跡を見学

ツアーに参加した山本 真理子さんから

長男が芸備線の資料を博物館にお貸ししたので、このツアーのことを知りました。小学校5年生から高校生まで、三次駅の国鉄職員の官舎に住んでいました。40数年ぶりに官舎跡を訪れてみると風景が全然違って、とても寂しい気持ちではありますが、子どもの頃過ごした場所の今の姿を見ることができてよかったです。また、久しぶりに芸備線に乗って、リラックスした時間を過ごすことができました。博物館の展示を見ても、芸備線に乗っていた頃を懐かしく思い出すことができ、ツアー全体を通して楽しむことができました。

乗せて、つないで、100周年—芸備線開通100周年—

通勤、通学、帰省、観光、広島市街への買い物、飲酒したときの利用など、私たちの身近にあり、移動手段の一つとなっている芸備線。

その芸備線が開通したのは、今から100年前の大正4(1915)年。第二次世界大戦や高度経済成長期、バブル時代などの激動の時代を経て、今なお、安芸高田市、三次市、庄原市の県北地域と広島市を結ぶ地域路線として走り続けています。沿線付近住民の利用はもちろん、遠方から県北地域へ来る際の交通手段としての活用も期待されています。

開通100周年という大きな節目を機に、わたしたちのまちにある鉄道「芸備線」を、振り返ってみました。



(撮影場所：甲立駅)

地域と地域をつなぐ芸備線

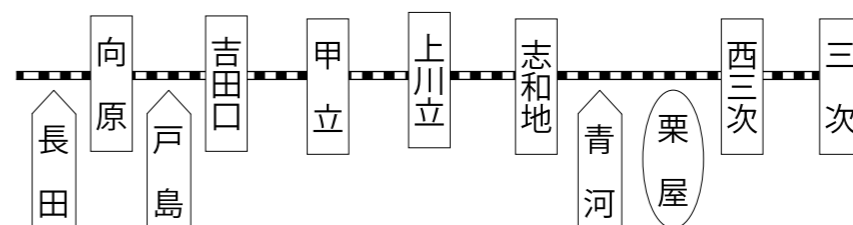
芸備線は、岡山県新見市の備中神代駅を起点として、三次駅を経て終点広島駅に至る西日本旅客鉄道(JR西日本)の鉄道路線です。

私鉄の「芸備鉄道」として東広島(現広島市南区)・志和地(現志和地・三次市)間が開通。その後、昭和11年に全線開通しました。そして、その翌年の昭和12年には国鉄が芸備鉄道を買収し、「芸備線」となりました。

昭和28年には、木次線経由週末快速「ちどり」の運転が開始され、山陽と山陰をつなぐ重要路線としての役割を果たしてきました。自家用車等が普及した今でも、県北地域と広島市をつなぐ地域路線として走り続けています。

現在の運行状況は、広島―三次間で1時間あたり1本程度を運転。普通列車のほかにも、快速「みよしライナー」が4往復運転されています(甲立駅から広島駅までの所要時間は約1時間20分。快速の場合は約1時間)。

<向原駅から三次駅までの各駅>



※長田駅、戸島駅、青河駅はかつて存在した短い客車のガソリンカー専用の簡易停車場。栗屋駅は大正5年～大正11年まで存在した駅。
※長田駅、戸島駅の詳細については、広報あきたかた平成27年4月号裏表紙「安芸高田歴史紀行」をご覧ください。